「小京都」
わずか三文字の短い言葉に
私たちは不思議な懐かしさと憧憬の念を抱きます
悠久の歴史と豊かな自然に培われた伝統や文化
季節を彩る風物詩　そこに住まう人々の暮らし・・・
そんな文化を守り伝える「東北の小京都　棚倉」を
歩いてみませんか
日々の暮らしのなかで忘れかけていた
懐かしい日本の原風景にきっと出会えるはずです

全国京都会議とは

昭和60年5月、全国に散在する小京都と呼ばれる26市町と京都市が参加して「全国京都会議」が結成されました。

京都とゆかりのまちが互いに手を携え、悠久の歴史と豊かな自然に培われた伝統や文化の魅力を広く全国に発信し、それぞれのまちのイメージアップと観光客誘致の相乗効果を図ることを目的としています。

全国京都会議への加盟は、次のような条件に一つ以上あてはまることを基準にしています。

①京都に似た自然景観、町並み、たたずまいがある
②京都と歴史的なつながりがある
③伝統的な産業、芸能がある

全国京都会議への加盟

平成25年、湯座一平町長が全国京都会議のホームページを見て、本町が条件の②にあてはまることから思い立ち、東日本大震災及び原発事故による風評被害を払拭し、減少した観光客を戻すため、平成27年4月に当会への加盟を申込み、同年10月に長野県飯山市で開催された「第31回全国京都会議総会」の席上で入会が承認されました。当時、全国で47番目の加入であり、現在も県内では本町のみが加盟しています。

平成30年4月現在、加盟は45市町となり、共同宣伝パンフレット・ポスターの作製・配布など、広域観光キャンペーンを展開するほか、年1回の総会を加盟市町持ち回りで開催しています。

赤館のふもとに残る京都との歴史的なつながり

赤館のふもとには、現在も「玉室宗珀謫居之跡」と刻まれた大きな碑が残っています。

この碑は、玉室宗珀という僧が、かつてこの地に庵を構え住んでいたことを今に伝えるものです。玉室宗珀は、安土桃山時代から江戸時代にかけての人物です。京都の大徳寺の住職を務め、その境内に芳春院を開いた人でもあります。

玉室宗珀が棚倉町へとやって来たのは、江戸時代、一六二九年のこと。当時、高僧には、その証として朝廷から「紫衣」と呼ばれる紫色の法服が贈られていましたが、幕府の許可なしに行われたとして、幕府が無効を宣言。抗議した玉室宗珀は、棚倉へと流されました（紫衣事件）。当時の棚倉藩は、第2代棚倉城主の内藤信照の時代でした。玉室宗珀は、京都へと戻る一六三三年まで、この地に信照が建立した光徳寺境内の庵で暮らし、親睦を深めました。

玉室宗珀が眺めていた赤館からの景色、山並みに囲まれた棚倉の景色は、遠く離れた京都の地を思わせるものだったのでしょうか。

京都の大徳寺は、武将との交流が多く棚倉藩初代藩主である立花宗茂の墓所があり、棚倉城初代城主の丹羽長重との交流があったとも言われています。棚倉の地との意外なつながりが、京都の大徳寺にはあります。

棚倉町の歴史まちづくり

現在棚倉町では、町内に存在する文化財を的確に把握し、その周辺環境まで含めて総合的に保存・活用して文化財を活かした地域の活性化を図るため、平成28年度から3カ年をかけ「歴史文化基本構想」を策定しているところです。

また、平成31年度の策定を目標として、本町における総合的な整備を図るべく「棚倉町歴史的風致維持向上計画」を策定し、国の認可を受け、歴史まちづくりを進めていきます。

今年も棚倉ふるさと講座とふるさと検定を開催

棚倉ふるさと講座は11月に、ふるさと検定は12月に開催予定です。詳細は決まり次第お知らせします。

棚倉町の歴史や文化について学び、自分たちが住むまちの魅力を再発見できる良い機会です。知らなかった棚倉町の良さがたくさん見つかるかもしれません。この機会に、より深く学んでみませんか？

■お問い合わせ

地域創生課　歴史観光係

☎33-2112